



1982

HYOUGEMONO SINCE 1980
MORNING KC
KODANSHAMORNING
KC
1982へうげもの
Hyouge Mono 12
山田芳裕
YOSHIMIRO YAMADA

9784063729825



1929979005436

雑誌 42671-82

ISBN978-4-06-372982-5

C9979 ¥543E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体543円(税別)

مردی سلطنتور دوران سنگوگو به اسم اوربیه هوروتا وجود داشت که روحش متلا به حرص و از چای مانیتک شده بود.
 او از بوبونگا باهله ماهیت جهان گسترش یافته راه و از سنوریکیو ازیاب چای بیش معنوی عشق را آموخته بود.
 با شوق به راه لوندگی حرکت کرد. اوضاع جنگ با کره نیز هتر شد.
 بلند هستی هینیشی در نیمه راه شکست خورد. برای تقدیم کردن اقتدار آخر به فرمانروا اوربیه نکاپو کرد.
 از صحنه اوتسو به صحنه جنید، زمان به سمت لوندگی می رود.

زندگی کردن با زندگی نکردن، برای قدرت با هار، مسئله مهمش این است!!



系の愚と物陰に満ちた戦国武将・古田織部。

天才・信長から壮大な世界性を。

茶腹・千利休から深遠な精神性を学び、

「へうげもの」への道をひた走る。

朝鮮戦神聖顕化、余命少ない太閤秀吉。

唯一の友として、この世で最後の花宴を。

「乙」から「へうげ」へ、織部ゴーズオン。

生か死か、武か教育か、それがいっそう問題だ!!



造り手が最初に世に出す物は

わかり易く幅広い年齢層に向けたものになるようです

初めに売り上げでつまずくと

後が続きやせんからねえ

後が続いてきやすと造り手の本言が徐々に

物に出てきやすが、私なんぞはそうなって

きた物が欲しいのです

織部好みの器が造られた期間は短く

やはり初期と末期では「ノリ」に差があり

最末期の伊賀焼に心の底から物寂しさが

わいておる今日この頃です

山田芳裕

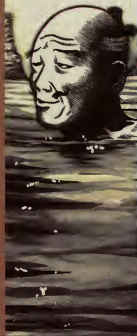




HYOUGEMONO SINCE 1982
MORNING KC
KOOANSHA

MORNING
KC
1982

へうげもの
Hyouge Mono 12
山田芳裕
YOSHIMIRO YAMADA



9784063729825



1929979005436

雑誌 42671-82

ISBN978-4-06-372982-5

C9979 ¥543E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体543円(税別)

مردی سلطنتور نوران سنگوگو به اسم اوریه هورتا وجود داشت که روحش مثلاً به حرص و از چای مانیتک شده بود.
 او از بونولگا باهغه ماهیت جهان گسترش یافته راه و از سنوریگو ازیاب چای بیش معنوی عشق را آموخته بود.
 با شوق به راه لوندگی حرکت کرد. اوضاع جنگ با کره غیر هتر شد.
 بلکه حتی هینوشی در نیمه راه شکست خورد. برای تقدیم کردن انکار آخر به فرماگروا اوریه نکاپو کرد.
 از صحنه اوتسو به صحنه جنید، زمان به سمت لوندگی می روند.
 زندگی کردن با زندگی نکردن، برای قدرت با هار، مسئله مهمتر این است!



系の愚と物陰に満ちた戦国武将・古田織郎。
 天才・信長から壮大な世界性を。
 茶腹・千利休から深遠な精神性を学び、
 「へうげもの」への道をひた走る。
 朝鮮戦線死闘化、余命少ない太閤再會。
 唯一の友として、この世で最後の花車を。
 「乙」から「へうげ」へ、織郎ゴーズオン。
 生か死か、武か教育か、それがいっそう勇躍だ!!



造り手が最初に世に出す物は
 わかり易く幅広い年齢層に向けたものにな
 るようです
 初めに売り上げでつまずくと
 後が続きやせんからねえ
 後が続いてきやすと造り手の本音が徐々に
 物に出てきやすが、私なんぞはそうなって
 きた物が欲しいのです
 織郎好みの器が造られた期間は短く
 やはり初期と末期では「ノリ」に差があり
 最末期の伊賀焼に心の底から物寂しさが
 わいておる今日この頃です

山田芳裕

大河にはならぬが、
まさかのTVアニメ化決定。

NHK-BSプレミアムにて、2011年4月7日(木)より放送開始予定
 毎週本曜午後11時～ 再放送:毎週月曜日午前1時～

●古田左介:大倉幸二 ●織田信長:小山力也 ●羽柴秀吉:江原正士 ●千原景:田中信夫 ●明智光秀:田中秀幸
 ●源川軍座:熊見辰吉 ●吉原:大谷幸 ●cro-magnon ●オープニングテーマ:「Bowl Man」feat. KZD(吉幾三)/cro-magnon
 ●監督:貞下耕一 ●アニメーション制作:ビートレイン ●制作:総合セクション ●制作・著作:NHK

乙なCDも発売にて候。 Hyouge Mono X cro-magnon [乙]

へうげたコラボレーションアルバム 2011年5月18日、ポニーキャニオンより発売予定

へうげ史上最小、講談社文庫版「へうげもの」11～19 2011年4月～7月、毎月2巻ずつ発売

へうげもの12 MORNING KC 1982
372982-5



MORNING
KC
1982



へんげモノ

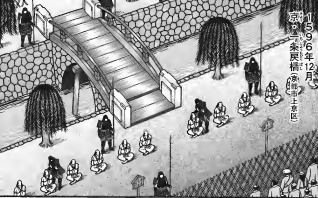
Hyōge Mono

Hyōge Mono

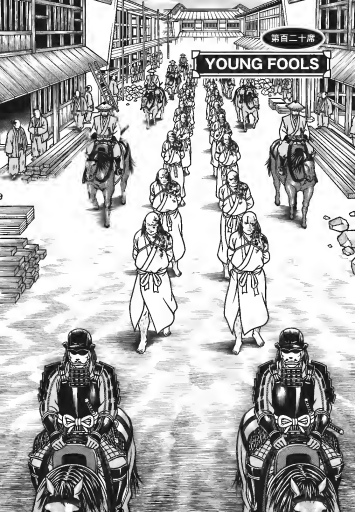
12

山田芳裕
YAMADA YOSHIYUKI

「へんげモノ」は、山田芳裕氏の代表作。この作品は、人間の心と身体の関係性をテーマにした、非常に興味深い作品である。山田氏は、人間の身体を「モノ」として捉え、その機能や構造を、まるで機械や道具のように描き出している。この作品は、人間の身体がどのように機能しているのか、そして、その機能はどのように人間の生活に影響しているのか、という問いかけから始まっている。山田氏は、人間の身体を、まるで機械や道具のように描き出している。この作品は、人間の身体がどのように機能しているのか、そして、その機能はどのように人間の生活に影響しているのか、という問いかけから始まっている。山田氏は、人間の身体を、まるで機械や道具のように描き出している。この作品は、人間の身体がどのように機能しているのか、そして、その機能はどのように人間の生活に影響しているのか、という問いかけから始まっている。



YOUNG FOOLS







見せしめの大物が
高山のみで済むなら
貿易に支障はない



禁教令を発した
殿下の御氣を
鎮めるために
是とせねば

されど
多くの恨みを
買いますぞ

利休居士の処刑を
許せぬ者が
私を害め大勢おる
ように



肥前は名護屋に
布陣の折……

貴殿の兄上
正徳殿に会い
申した……



して
かように
申された

弟を宣しう
……

今後も助言を
願ひ……と





兄者め……

余計な真似
を……



恨みを
持つ者を
増やせば

ついには
幕臣が世を
危ううしますぞ



貴殿は自らの至らぬ
ところを心得ておる
よう……

ならば治世に務めを
果たすのみでなく

今後は人情という
ものも解しなされ



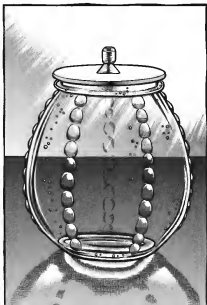


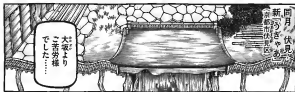
今度の件

貴殿への
貸しに致す

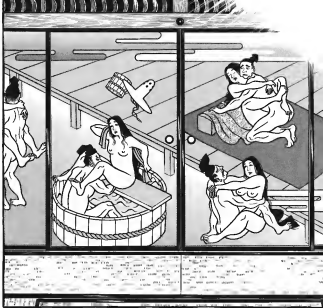
















お前は金時のいきり立つ
仕組みを全くわかって
おらぬ……

操で交う景に
数奇者が催すと
思うてか……!!



青二才めが



ちやうん
かい!!

わしかて事で
女子の肉体
ぐらい知って
るんや!!



手に入り難き
番ゆえ なが
欲しうなるのだ
……

見難き素肌ゆえ
チラと垣間見えた刹那
劣情に火が付き
血汐が滴るのだ……





どこまで伸びるやと
目をかけておいたら
この様よ……

今まで暮らした
費用の一切……

払うて
もらうぞ



ア……
アホな!!

ちいと待て
や……!!

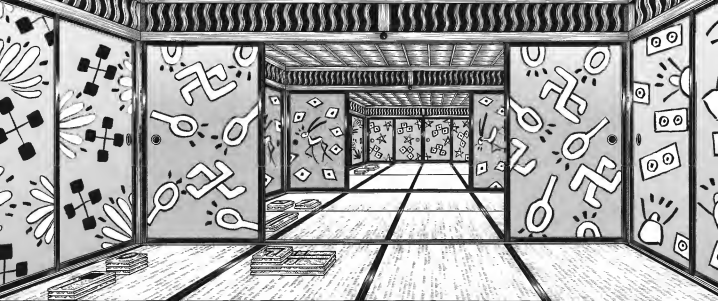
他の間の
襖絵も見て
みい!!

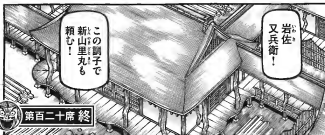


こつちが
本命や!!!

又兵衛
渾身の作
やで!!



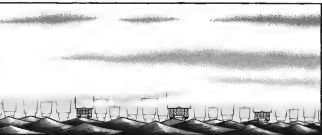




1597年1月

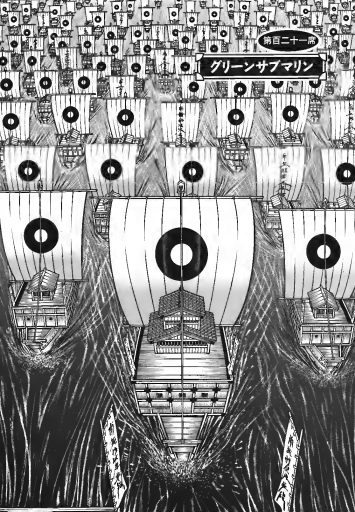
朝鮮・慶尚道 西生浦

(大韓民国蔚山広域市)



第百二十一話

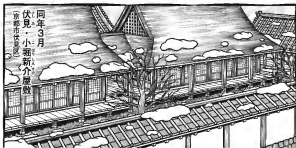
グリーンサブマリン















どうか今後も
宜しうに

ふつつかな
茶の湯の師
なれど



そ……そうでした
ね おかね殿……

では 宗匠より
頂いたこの徳利
にて一献に……



作介様……

ご来客の善様に
お酒をお注ぎ
しませぬと……



それでは
足りませぬ
……

せっかくお役に
伏見のお酒を
頂いたのですから
……





す……..
凄いわ!!

なんて
男勝りな
お嫁さん!!

これなら私の
力になって
くれそう……!!



伏見
徳川家康屋敷

無事脱書を
挙げられ
良かったのう
藤堂殿



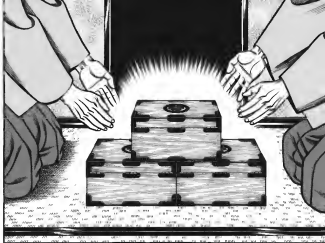
これも徳川様が
小堀殿に口添えて
くれたおかげ……

亡き秀長様が臣下
同士 仲良う
やってゆきまする

藤堂殿には琴茶屋屋敷
より 普請で世話に
なっておるゆえ……

今後も
頼み事あらば
なんなりと











江戸の方は着々と
発展しております

その頃には
京に勝るとも
劣らぬ都と化して
おりましよう

太閤様の御命とて
持つてあと
四、五年……



強かになられ
ましたな……

明智様も重宝の
陰で 喜んで
おられましよう



私とて
齢五十半ばの
老体ぞ……



好事度多し
……



偽りの茶の湯
ばかりに精を
出さず……

己が名の如く
身体康らかに
保たねばのう





真に太っ腹な
お方で……

資金を注いで
下さっても……

利益の還元は
店が軌道に乗って
からで良いと……



何か話が
うますぎる

年を取り
茶の壺に目覺め
たとは申されて
いたが……



して……實際
商いの方は
どうなのだ？

私とて日夜
氣に掛けて
おるのだぞ



美濃・瀬戸物は
相変わらず弊けて
おりますが……

唐津のゆがんだ
物は見向きも
されず……

「ふざけるな」と
怒られる始末
にて……





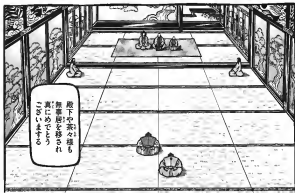






第百二十二席

伊達リアルガール





元服なされた
拾遺改め秀頼様も
御一緒に住まわれ
るとの事……

天災を蒙り跡え
御家族一丸となって
世を治めんとす
その御姿に……
この威厳正……



感涙一入に
ございます

お前も
老いたのう
左介……

祝辞が
長いわ



今後は西の丸の
男子禁制を
徹底す

茶用ありとて
お茶々の許し
無ければ
入れぬからな

心歸しました

山嵐丸は
どうなっとる



奥からの事でも案じ
透れておるのでは
あるまいのう



左様な事は
一切……

綱張りも済み

今は庭石の
到着を待つて
おる次第……



石だ……

上田主水正殿に
遺物を御達願う
ておりますれば

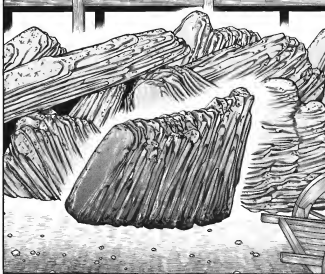


しばしの
御辛抱を

えもいわれぬ
数寄場の頂を
御覧入れますゆえ







買い付けた
石の量が多過ぎ
ませぬか……!?

渡された帳簿に
予算を大幅に
超えた額が……!!

お……
お待ち下さい
上田様!!



み……縁という
より端に近いが
……

このさきくれ
立った石肌が
龍の鱗を想わせ
素晴らしい……

でかしたな
上田殿!!









ハッ
ハッ
ハッ
ハッ

……
恐えつべえ

目が笑つて
ぬえつべえ……

下手に答えたら
審判がかれつべ
よ……

東國の奥賀な
銃を以て……

書院や櫓を堅牢で
面白きものにして
くれと……

伊達政宗と
力を合わせて

だ……

伊達と申され
ましたか……

人を和ます術も
まだまだか……

宗匠が山梨丸の
作事を手伝うて
紋しいとの事……

ふう……



北の覇権を巡り
我々が狙み合うところを
宗匠は承知のはず……



これを機に
弟子同士
仲を直せとの社
なのであらう……

伊達

佐竹

だが

そうは
参らぬ

たとえ数奇で
あらうと……

政宗の如き
野蠻な輩には
負けられぬ







伏見・伊達政宗下屋敷
(伏見区深草西伊達町)



今度は山里丸を
手伝つてくれと
よす



宗匠の頼みじやア
断れぬニ……

「佐竹と共に」っ
てのが氣に入ら
ぬエがよす



このままでは
奥陣に賣ぐのみ
で……

我が陣裏が
跡かになる
ばかり……



やはり奥陣との
商いに踏み入るが
良策やも……



幸い堺の商人
今井宗直と付き合
いがあります

他国以上に
硝石を仕入れる
事も可能かと



禁教令が布かれた
この二時勢にかア
?

伏見城通りが
良い隠れ蓑

普請が為の資材や
資金の確保なら
咎めはありません



日本の本を越え
四海を征服す
真の竜となるのだ
!





1507年7月
伏見・新町・あなざり町・大馬路



その方から
茶席へ
進まれよ

以前は敵なれど
今は兄弟子ゆえ



第二百三席

部屋と対決と鎖



お見事……

黒び石を雷無く
滑らぬよう傾うには
足許に意を払わねば
ならぬ



何がだア？

せつかくの
師意に気付かぬ
のか？

それでは貴が見難き
ゆえ 宗匠は歩き易い
長き黒石を敷いたのだ

客が武人なら
下を向き歩くは
拙にならぬしのう

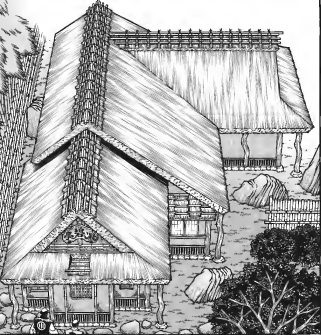
なにより
石が臭い……

かようにも
鮮やかな黒石に
包まれると……

まるで天海を
ふわと泳いでおる
心持ち……

わかった風な
事をほざき
やがる……









この二枚障子
は何でエ?

カラッ

以前の望遠鏡には
無かったゼエ



床に窓を設け
花を飾るとは
……

真の一郎が茶室に
まで 入り込んで
おるようで……

どこからか
小川の細流が
聞こえてきそう
だっぺよお……



そこは
相伴席に
おられる

歐人の客は
どうしても
身分の上下で問題が
生ずるゆえ……



下の者が上の者と
同席せぬよう
一頭下げたのだ

利休居士は
茶の湯に身分の
上下無しと説いた
……

私もそれを
理想とし
そうありたいと
思うが……



それで
良いのかい
宗匠よオ



茶湯のために
障いが起きては
元も子もない
ゆえのう



俺アあんたを
尊敬してゐるがア
.....

それ以上に
利休居士にア
心酔してんだア

前宗匠の成した事を
そこまで変えていい
つてのかい.....!?
オオ!?





佐竹エ



この男との同席
願い下げ申す

せつかくの
湯茶が不味う
なるばかり



ビュッ

糞竹エ!!!



















呼ばれてお待ち
しておりました
政宗様♡





武家の縛りなぞ
忘れてエ時も
あらアな！



お前らが
わび抜きで
そういう手
くるならマ

俺もやって
やらマ……



ちくしょう

真竹に
總部正めエ



目にももの
見せてやる
ぜエ

この「伊達」が
数奇でなア!!

1597年8月

山城国・山科(京都市山科区)



四の五の
言わず
受け取りなア

那古屋の
山ちゃん

第二百二十四席

Lover Soul







おくにヤ
あああ!!!



氏郷様亡き後 新たな軍中になじめず 勤めを辞したものの

袖より外に才原き 者に冷たいのが 今の世……



これ程……

これ程までに 独り身が身に沁み ようとは……



同じ物を献上された
上皇も さぞ御慶び
になられたであらう





はい

九州は所々より
こちらへ呼び寄せ











世では未だゆがみが
受け入れられぬ
ようですが……

御参みのある
要請物ならば
きつと我先にと
買ひ手がつきましよう



それはそうと
織部正様

この登壇が
完成すれば……

ついに我が美濃
でも ゆがんだ器
を量産できまする



俺の……

俺のやっておる
事は間違えて
なかった……

利休居士の創り
上げしものより
逸脱してから……

心の片隅に常に
不安があった……

己が自信に
根が生えて
なかった……

それで……

きつやく……

雲上の粹人にまで
欲せらるるに
至ったのだ!!





なんと



ベキシアが森の「あきん」には推測いですが……

確かに線を成しており……

南窓のビードロを溶かして掛けたが如き様です……



なんと
ミュービヤアと
いじらしき
淡線……



何分 私めも
伊賀は専門外ゆえ

ただ 買った
店の主人に
尋ねた所……



それと伊賀は
無難の器をはず
だが……

そこがわから
ないのです



おえい殿なら
わからぬか？

私には
とても

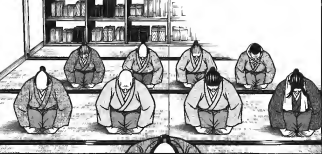


陶工に注文して
最も機がられるのは

赤黒く地肌が焼け焦げ
左様なビードロが
かかったものだ……

ごく稀に偶然できる
ものゆえ 難しうて
困るとの事でした







岸藏におる
おんい殿と
織部正様との男子
の笑みを見ればな



寓の仕上げ
を……



岸藏が戦乱に
巻き込まれねば
良いが……

15197年9月
京方広寺園(京都市東山区)



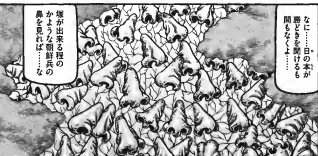
とあると
京におる我らも
出陣間近か……

朝鮮軍も
しよといのう
……



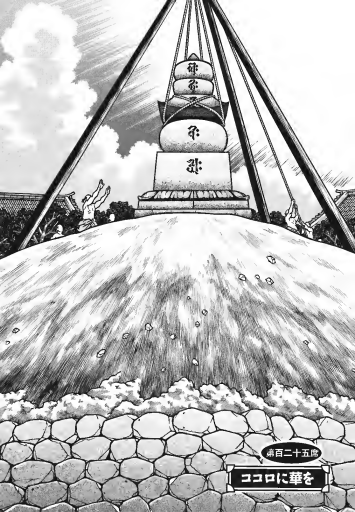
軍中におった
李舜臣が戦に復帰
するそうな……

どうやら
陸軍も参戦する
らしい……



なに……日の本が
勝どきを聞けるも
間もなくよ……

煙が出来る程の
かような朝鮮兵の
鼻を見れば……な



第百二十五度

ココロに華を







御待ちして
おりました



明の参戦にて
領土の露行きが
危しうなつてきた
事が……

殿下の心を
荒れさせておる
……

大丈夫なのか
左介……



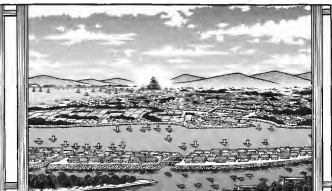
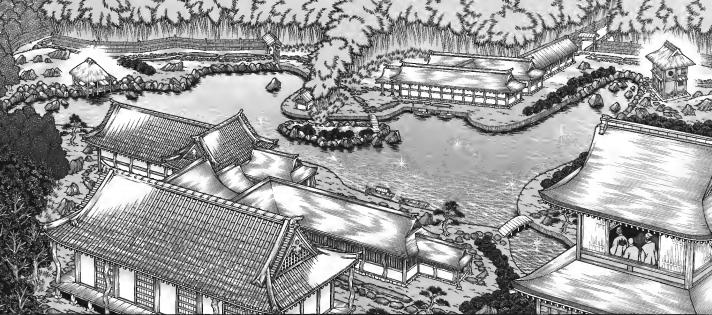
我が弟子達の
助けにて
権上に仕上がった
と自負します

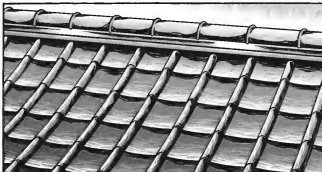
キ
……………

まずは權に上り
とくと全貌をば



これよりは
この織部正が
案内仕ります







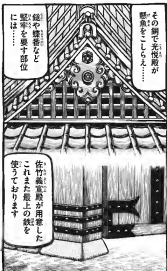
赤褐色にきらめく
銅を張って
います

伊達政宗殿が
天下一にふさわしき
最上の物をと
用意致しました



何ゆえ「銅」
なのだ……

余の金好きは
知っておろう



その銅で光悦殿が
懸魚をこしらえ……

鐘や鐺番など
堅牢を要す部位
には……

佐竹義宣殿が用意した
これまた最上の鉄を
使っております



座石を
御覧下さい



銅は刻が経てば
緑青を生じ……

あの見事な
鑒石と同じう
なります



金や銀では
そうは参りませぬ

この色合わせの妙
こそ、新たな伊達流
わび敷きだと……

鼻高々に
申しており
ました



さらに
伊達殿はより
純粋な銅を
得るため……

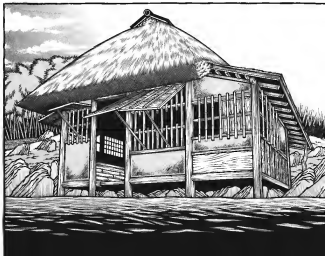
新たな
精錬術をも
駆使したとも
……

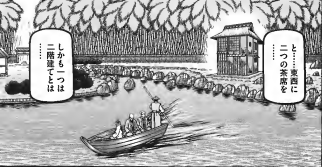


何やら、銅の
今井宗重に頼み
南蛮のアマルガムなる
術で鑒石より銅を得た
と……

上ほど佐竹殿に
負けとうなかつたの
でしょうなあ







と……東西に
二つの茶席を

しかも一つは
二階建てとは



もっともらしい
事を……

北野大茶湯での
献上茶室を
再現したかっただけ
ではないのか……!?



舟に
御乗りのまま
入りますれば

今日はこちら
を使います



その刻々で目当たり
の良い方を避けるように
致しました

二階建てにしたも
より高位な方と座を
分けられるよう……

武家が茶の工夫に
ございまする





概ね良好
かと







※この場合、写射性のこと









何ぞ跡に落ちん
事が……



貴殿には俸の件
で世語になって
おるゆえな……

数奇はともかく
あの「左介」が良う
育ったものよ……

あれ程までに
社を決めて言葉
を吐くとは……



陛下より一切
御咎めや奉迎が
なかったのが……

逆に
不可解であり
寂しうもあり
……

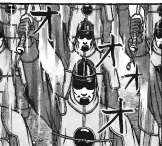
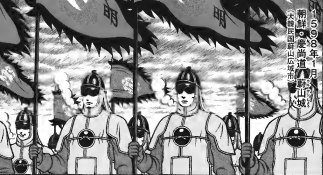


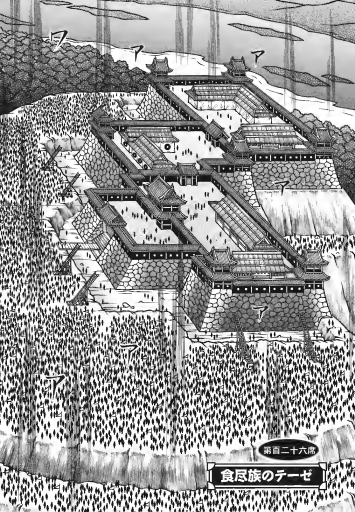
今度は一笑を
取れなかった
それがしの負け
に……

1598年1月

朝鮮・慶尚道蔚山城

(大韓民国蔚山広域市)





第二百六席

食尽族のテーゼ







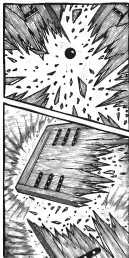










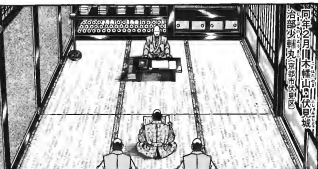














されど
石田様

その先が
問題にて



敵地への最前線たる
蔚山城は かように
死守され……

明・朝鮮軍は
四千余の兵を失い
退却したようです



さらに諸将は
各々の居城が
心配になり……

蔚山城より
勝手に引き揚げ
た由……



戦において
退く兵を追撃するは
鉄則なれど……

加藤主計頭
並びに援軍の
諸将は……

兵糧の欠乏を理由
に それを怠った
のでございます



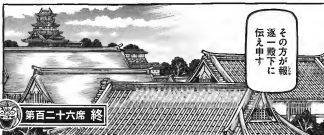


大名たるを
辞めさせねば
ならぬ



詳細を
確かめよ

今一度
朝鮮へ送り



その方が報
還一殿下に
伝え申す

1598年2月
朝鮮・慶尚道
泗川城
(大韓民国蔚川市)

申し上げます
小西様

和睦の儀りが
明王宮にばれ
過しておられた
沈惟敬殿は……

程なく捕えられ
北京にて処刑
されたとのこと

これは……

配下の者が
持ち帰りし遺品
でございます

日明は言うに
及ばず……

我ら小西勢と
明との関係も
もはや絶望的かと
……

第二百七席

夕方 MY BEST FRIEND





戦勝を友好に変え
貿易を開通するのだ



明はともかく
朝鮮とは 和睦を
実現せねばならぬ

表面きは
太閤様の意向に
沿いつつ……な



それがイスパニア
の意向でもある
……と云ふ



彼の國が目的は
貿易……右哉
……山崎

このまま第一段階
たる貿易すら
ままならぬとあれば
……



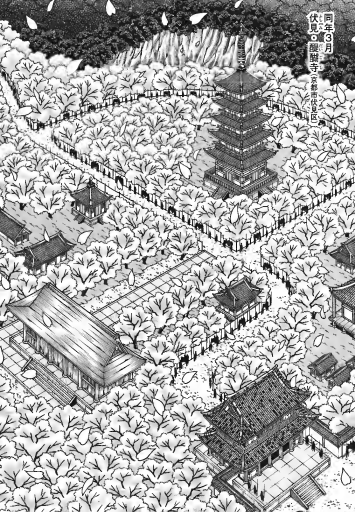
占領後の指揮を
我らが任せらるる
事もなく

のちの独立国
への夢も
霧と消えよう



同年3月

伏見・醍醐寺（京都市伏見区）







これ程の僅しを
成さん 殿下の
御心中とは……



いわば殿下の数奇が
集大成と申してよい

その手腕たるや
御見事……

なにか……
かような重やかさが
懐かしく いとしう
感ずるわ……



朝鮮での苦戦に
よる暗き気分を……

何としてでも
払拭したいので
あらう



我らは茶の用意
ぞ 上田殿

殿下がいつ
御見えになつても
良いように



さあ
女房衆よ

順に湯を
取らすぞ







のう
を介よ……



今日のために設け
られた八つの茶屋
を廻ったが……

やはりお前の
席が良い



もはやそれがしの
席など、棄て頂けぬ
ものかと……

「利休好み」の
わびた風情にした
中庭がございました

千水鉢を御使い
頂き 如何でした
か……?

きりとて己が
創意を消す事
致しませぬで……





この華々しき
桜を見ても……

この上のう
開しう見える
のだ……

もう見られぬやも
しれぬと思えば
……なかな



だがのう
左介……



俺は数寄に
おいても
どんだん……



利休のわびもわかり
信長公の華もわかる
……

誰からも解されぬ
男になつていくわ
……



たしかに

陛下ほど
解し難き御方も
ございませぬ



ただし 数寄に
おいてはわかる
つもりにございます

同じく信長公と
利休居士に傾倒
せし者として



ビードロの筆と
わびた風情を
併せ持つ……

伊賀水指にて



百姓から
渡りの者……



足輕から大名……
天下人まで経験
なされた御方は……



古今東西誰一人
としておりませぬ
ゆえ……





あまり寂しが
れますな……



陛下は仰せに
なりました……

師を慕ひし者同士
友であつてくれと
……

それがし
僧侶ながら
ずっとそのつもり
であります



殿下っ!!!



身体に降った
わ

吐の内を吐く
など、慣れぬ
ことだ...



お前とは
ダール・イ・
レゼベールの
間男だった...

たしかに
...



本殿寺にて
手にかかし時
...

上様がこの世に
放った言葉よ
...



は!?
...



俺と上様は互いに
利を受け 与える
遠慮なき関係で
あったと……

それを
ダール・イ・
レゼベール……

「愛」と仰せに
なったのだ
……



左様な善心地の
良い関係であった
ものを……

俺は……



俺は「箔」欲しさに
野心を先じて
しもうたのだ……

「箔」がために
最高の理解者を
この手に……



朝鮮を……
皇帝の座を……

俺の筆は未だ
「滔」を求めておる



もう喋られ
ますな……!!

御身体に
……!!!



気付いた
……

されど
……



愛すべき
友だと

生涯を賭して
求めた「滔」の
最たるものとは
……





笑えませぬ



いずれ証して
みせます……

無駄な努力では
なかったことを
……



友と呼べる者が
幾人もおる事を
！

何卒
御氣丈に！







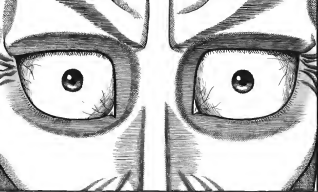
自害まで
共にせずに

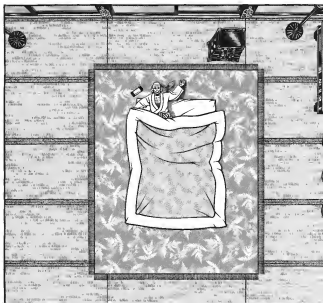
第百二十八席

|| OZAKA JO BLUES ||











御立ちになれる様
御参り下さいませ
石田様

御食事も
一切振られぬ
ようで……



殿下の御容体
は……？

ズダッ



ついに
来るべき刻が
来たか……



はっ！

朝鮮は蔚山城に
関わりし諸將の
件は……



ただちに奉行衆と
大名の招集を
……！！

この事
厳況に響くゆえ
内外に漏らしては
ならぬ！！



御達し通り
相国次第謹慎
領地の一部を
没収とす！

殿下が健気で
あられたら
この程度では
済まされぬ！



同月
摂津国・大阪城内
古田重定役宅
〔大阪市中央区〕



ふ……









殿下が御亡く
なりになるに
合わせ

殉死せん



三千石の知行
を頂き……

何の不足も
のう暮らせて
きたのだ……



お前もぞ
重然

その御恩に報い
ぬ訳にはいかぬ



それが武人たる
者のけじめ……

殿下には
真に良うして
もろうた……





息・重朗とて
器冠二十歳……

山城の岡
三万五千石を
任すには不安が



それがしの
如き若い
身空で

齢五十を過ぎ
若いも舞もない
!



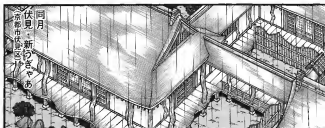
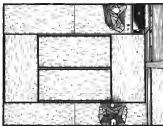
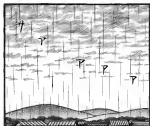
重朗には猛将
仙石秀久殿の娘と
いう立派な嫁がおる
!!

茶頭役とて
お前以上に古典を
知る者がおる!

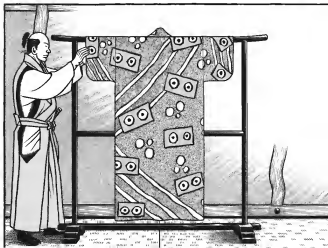


それに筆頭茶頭役
は如何し申す……
!!

重臣への奉公は
いまだ終えて
おりませぬ!!











「……
これは……」



「器の切形に
ござる」

島津殿は豊臣家が
欲す明や朝鮮が物
を運ぶ御所丸船を
出しておろう



「……
もしや……」

「豊臣家中には
無断で……!?」



「朝鮮には
我が恩のかかった
家があるゆえ……」

「この切形通りに
造らせた物を
御所丸船にて運んで
欲しいのだ」





されど
ここへきて……

殿下の病と運命を
共にせねばならぬ
のか……



御恩は返し
たい……

「友」と
しても……



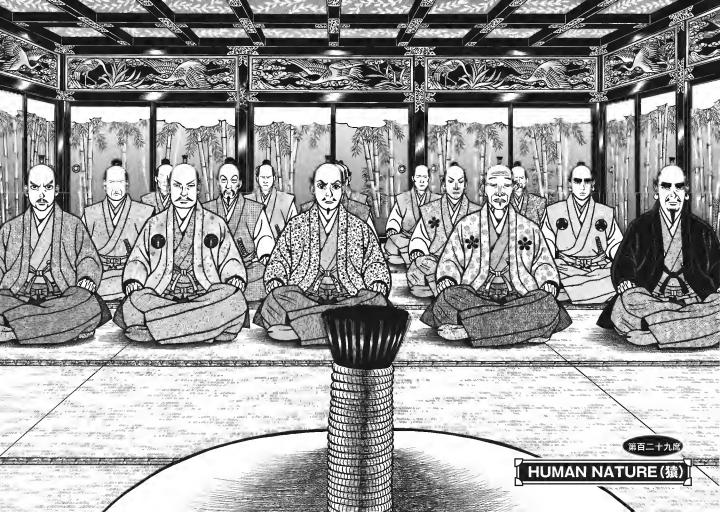
だが……

今の俺には
……



1598年7月上旬
本膳山・伏見城本丸
(京都市伏見区)













されど昔から死ぬ死ぬと宣う者程死なぬもの……

もそつと末嗣の噂を御聞かせ下さりませ



何を弱気になっておられます殿下……

左様な事を申されますと 真に天下を狙うてしまいますぞ







だがのう
家康よ……

今のお前では
天下は獲れても

治め続けられ
ません



人間とは
知恵のついた
猿ぞ……



知恵で押さえ
付けられるは
人の上っ面のみ
……

残る猿の
部分までは
かなわぬ……

それまでも
押さえ付けないと
するなら……

お前では
努力が足りぬ

時には親しき者の
眼を抉り 鼻を削ぎ
見せ物にせん程の
.....

非情になる
努力がな

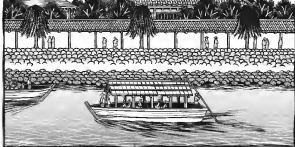






臣下として
ではなく

男の約束に
ごさいます
れば







同年7月下旬
江戸屋敷町四区



お忙しい中 真に
恐れ入ります
蔵部正様



待ち焦がれた
ぞ 新兵衛

おえい殿が
加わればすぐに
良い物ができると
思っておったわ



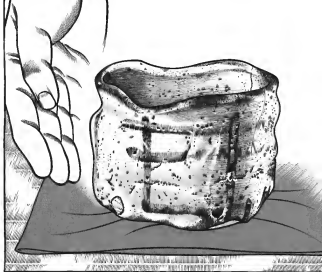
お招きしたは
外でもなく……

ついに美濃より
ご所望の物が
出来上がって参り
ましたので……



おえい殿も一安心
して御澤々戻った
とのこと……

まずはその
出来映えをご覧
下さりませ……



ついに志野は
ここに極まった
.....!!!

これぞ真の
「はにゃあ」!!!





いずれ
証してみせ
まする

友と呼べる者が
幾人もおる事を
！



パカラッ

ハカラッ



殿下の息の
ある内に……

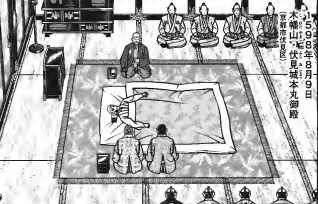
早うに
……

実現せねば
……



父の命令は
ともかく……

貉^{イノシシ}の約束
だけは……



つゆと
おち……

つゆときえ
にしわが身
かな……

難波の事も
ゆめのまた
ゆめ……

第百三十席

GREEN-TEA SUPERNODO









同年8月12日

伏見城治部少輔丸

徳川には
重ねて誓書を
出させ申した

これにより もし
徳川が不遜な動き
を見せた場合……

ただちに尋問にかけ
逆賊として扱え申す
直江殿

さすがは
石田様……

殿下亡き後の世に
いち早く枕を打って
おられる……

如何です……

これを機にいつそ
石田様自ら天下を
束ねられては……？

我が主
上杉殿として
留んでおりますぞ



伏見の酒は
直江殿にも元腹
を吐かすか……

私の力は
秀頼様の御威光
あればこそ



されど何事も
お若き秀頼様に
決断を仰いで
おられると……

徳川に隙を
突かれますぞ
……

たとえ徳川を
逆賊に仕立てよう
と武力で押し
切られては……



それについては
一計ござる







殿下が御危篤であられるというに、男の面前で水浴びとは……



もはや殿下への情は、一片もございませぬか、茶々様……



如何した？

抱きとうなつたか、有楽斎



無いと申せば嘘になる……

想い出に変われば、泣きもしよう……

それだ……



我が子出生の密を、殿下に隠し通す務めものうなるゆえな



せいせいする心持ちが勝るゆえ



是非は
わらわにも
わからぬ

や……やはり
秀頼様は殿下の
子では……

子種をもうた
時期が 殿下と
等しいゆえのう



木木木

人払い
しておるわ



のう
有楽斎……



なに……お前の
子種でも真かった
のじや……

誰の子であろうと
世継ぎの母である
ことが大事……

殿下亡き後
誰もわらわに口出し
できないことがな



一度はわらわ
より離れ……

再び御衆として
戻ってきたわけ
だが……

今度こそ
わらわの側に
腰を据えては
みぬか……？



織田の血を引く
者なら……

秀信殿や
信雄殿もあり
ますれば



むろん諸兄にも
声をかけん……

だが真に
必要なのは
お前じや……



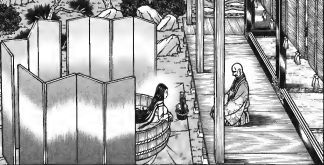
織田の血を引く者
同士で 天下を
牛耳ってはみぬか

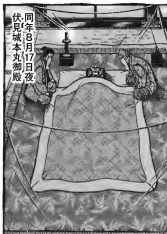
お前を型にはめん
とする者は もはや
誰もおらぬぞ

華咲き乱るる
世を再興する
には……

殿下のわび敷奇なぞ
微塵も入らぬ
さらびやかな世に
するためにはな

















御典医の命に背き
殿下を拉致せし
所業!!

腹を切る覚悟は
できておろうな
!!!

第百三十一席

J-DREAM

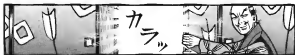














返り討ちに
してくれる!!!



むう!!!

憎つくき信長を
倒し 天下は
明智がもの!!

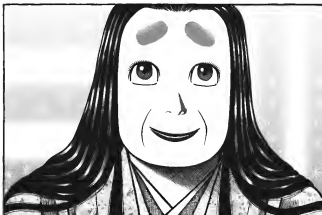
そこに見えるは
羽柴秀吉か!!!





お見事！

これにて
天下は殿下の
許へ！









な……

大谷
幸次

「相槌」
……!!



最期に……

「薬」の一点で
上様は賭けたわ
……

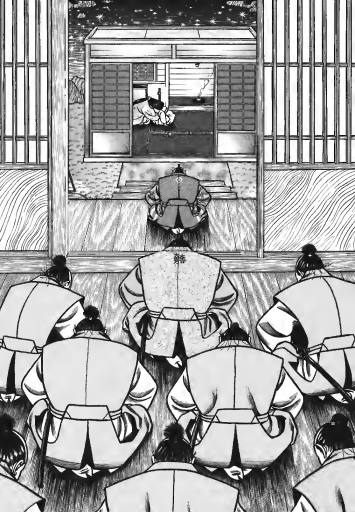


お前は
生きよ

生き続けて
俺の「薬」を
世に伝えい











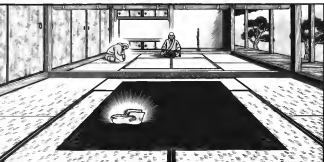
同日午前8時

伏見・徳川家康屋敷
（京都市伏見区）











TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE Hyouge Mono 12

YOSHINORI YAMADA ●●●●

へうげもの
12巻

1982

HYOUGE MONO SINGLE
MORNING K.C.
KODANSHA



ORIE FURUTA, TOYOTOMINO HIDEYOSHI, MITSUNARI ISHIDA, SATOMARU UEDA, IEYASU TOKUGAWA

2011年3月23日 第1刷発行 (定価はカバーに表示しております)

著者

山田芳裕 ©Yoshinori Yamada 2011

発行者

清水保雄

発行所

株式会社 講談社



〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

電話

編集部03-3945-9155

販売部03-5395-3608

発丁

シマダヒデアキ (Local Support Department)

印刷所

大日本印刷株式会社

製本所

印刷製本株式会社

本文装幀所

豊岡印刷株式会社

ISBN 978-4-06-372982-5

N.D.C.728

244p

19cm

Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行
業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

著丁・芳丁氏は個人責任を明記のうえ、本社編集部にお送りください。

また、小社本部にでも取り寄りたいとします (電話03-5395-3608)。

なお、この本についてのお問い合わせはモーニング編集部にお願いたします。

「へうげもの」第12巻は、

モーニング10年24号、28号、30号、32号、34号、36-37合併号、38号、41号、43号、45号、47号、49号に掲載された作品を収録したも
の です。

編集部では、この作品に対する感想のご意見、ご感想をお待ちしております。

また、今後「モーニングKQ」にまとめてほしい作品がありましたら編集部までお知らせください。

なお、お送りいただくお手紙・おハガキは、ご記入いただいた個人情報を全てまで書庫にお渡しすることがありますので、

あらかじめご了承ください。

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 講談社 モーニング編集部 モーニングKQ係

KODANSHA TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE
HYOUGE MONO 12

この漫画はフィクションにて候。実在の人物・団体等と無関係にて候。



へうげもの人間関係図

第12服までの概略です。作中ですでに死去した人物、未登場の人物を含みます。人間関係というものはなにかとややこしいゆえ、個々の縁戚関係など、細かな点は省き申した

織田家

織田信長

織田信忠
織田信雄
織田信孝
織田有楽斎

豊臣家

豊臣秀吉

北政所
淀殿
鶴松
豊臣秀頼
豊臣秀長
豊臣秀次

五大老

徳川家康

前田利家 毛利輝元
宇喜多秀家(小早川隆景)
上杉景勝

高山右近

五奉行

浅野長政

石田三成

増田長盛 長束正家
前田玄以

徳川家

結城秀康 徳川秀忠
酒井忠次 本多忠勝
榊原康政 井伊直政
本多正信 など

諸大名

伊達政宗 佐竹義宣
細川忠興 蒲生氏郷
細川幽斎 加藤清正
福島正則 黒田孝高
黒田長政 加藤嘉明
蜂須賀家政 浅野幸長
藤堂高虎 大谷吉継 など

古田織部

上田重安(左太郎)
小堀正次
小堀政一(作助)

小西行長

堺衆

津田宗及
今井宗久
今井宗薫

千利休

山上宗二

絵師・陶工など

長谷川等伯
本阿弥光悦
加藤景延
瀬戸屋新兵衛
岩佐又兵衛

明・朝鮮

沈惟敬
李舜臣

NEXT第13服!

2011年夏発売予定

キリスト教

イエズス会

提督

盟友

藩邸

評議

幕府

幕府

盟友

茶屋と唯一の友

